

第2回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、アクションプランを示していくこと等が議論されました。

1 日時 平成25年8月7日（水）

2 場所 ホテルグリーンパーク津 安濃の間（津市羽所町700）

3 内容

（1）推進会議での承認事項

- ・学校・家庭・地域別の「キャッチフレーズ」及び「行動の柱」、「成果指標」と「取組指標」について、概ね了承されました。

（2）推進会議で出された主な意見

- ・県民運動の基盤となるのは、県民に教育に関心を持ってほしいことであり、いいメッセージを発信して運動の気運を醸成していきたい。ただし、3つの視点を貫くものとして、子どもに対する視点も必要である。
- ・開かれた学校づくりとして、授業改善に視点において学校関係者評価を導入し議論している。
- ・すべての県民がみえの学力向上県民運動を意識するためには、核になるものが必要である。その核となるものが読書活動であり、家庭も地域も学校も取り組むことができる。
- ・様々な体験をする中で、子どもたちは「もっと知りたい」という気持ちが生まれる。その子どもたちの意欲をかきたてることを大人は支援すべきである。
- ・「自分で考えられる力」、「問題解決する力」、「クリティカルシンキングができる力」、「コミュニケーション能力」等、グローバルな社会で使える力が必要であると思う。
- ・民間は成果を明確にして、経営を進めている。その成果を達成できる人材が必要である。教育でその人材を育てていただいていることから、全面的に支援していきたい。
- ・子どもたちは、自分のやっていることに対し成果が見えることについては、非常に熱心に取り組むことができる。指標として学力を向上させるというのは大切。まずは学力向上をさせることにベクトルを持っていかないといけない。
- ・三重県は全国でも有数の文化がある。ふるさとを子どもたちが国内外に発信していく活動の楽しさを身につけさせることもいいのではないか。「外」に発信することにより「内」の理解が深まる。
- ・小さい頃から本を読むという環境がない家庭もある。そのような家庭では学校に本があふれていても読もうとはしない。小学校でみんなと一緒に読書活動を楽しむことができる力を、家庭や幼稚園、保育園で協力して養うべきである。
- ・放課後を活用し、様々な職業に就いている人から話を聞くのも子どもたちにとって楽しいと思う。みんなが子どもを見守る仕組みを作ることが大切であり、それをアクションプランに落とし込めればよい。
- ・本日の議論を踏まえると、子どもにも大人にも納得性が高まるアクションプランを作っていくことが重要だと思う。